

・雨でも休まず、252回、253回・

### 「小原本陣の森・若柳嵐山の森」

- ・定例活動：1月11日（第二日曜日）：この地区の慣習では、10日までは山作業しない。活動日を第2週に変えた。小原の森はこの時期、氷付くので、小原の森の神様のご挨拶して、“若柳の森”に移動し、新春を祝う。お節の残りものを持っておいで。楽しくやろう。参加費なし。
- ・定例活動：1月18日（第三日曜日）：若柳嵐山の森・里山交流、多様な森林活動  
午前中は、神事の軽作業、  
午後は恒例の新年会；参加費：3500円：男女共  
会場は、交流センター、ル・ボン：1500円：学生  
\*差し入れ歓迎！

.....

- \*注意事項1：初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合、ベテランは各自森へ
  - ・服装：汚れても良い服装、着替え・滑らない足元
  - ・持参：飲料水、成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、
- \*注意事項2：危険管理・救急体制：森林ボランティア保険他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

### 「活動は、11年目に入った。経過の概略を報告する」

最初の活動は、1998年11月20日であった。今月で10年3ヵ月目に入る。今も素人だが、当時は素人以前。これまでに至る軌跡を辿る。全て順調という訳ではないが、それなりの成果を経て、今に至っている。

1998年11月：活動開始；会名称：「さがみ湖・森づくりの会」

2002年7月：法人登録；会名称：「NPO法人緑のダム北相模」

\*目標として“国際認証FSCの森”にすると公表した

2005年4月：「かながわボランティア基金21」と森林協働5ヵ年事業開始

10月：「FSC認証の森」に登録：市民団体によるFSCの森、世界初らしい

2007年11月：(社)国土緑化推進機構：会長賞受賞

2008年10月：(財)日本ソロチミスト会：感謝状

\*ソロチミスト会；世界規模の女性企業家団体、北鎌倉兼松代表の活躍が認められた。

今、当会は、4ヵ所に森林活動フィールドがある：「1 小原本陣の森、2 若柳嵐山の森 3 緑のダム・北鎌倉の森 4 緑のダム・湘南の森」。

また、都市部2ヵ所、(1 相模原市(4月)、2 川崎(9月))で、大々的に森林広報を行っている。この、6つのフィールドの共通合言葉は、「森林破壊という負の遺産を子孫に残してはならない：木を使うことは、森を守ること」。そして森林保全活動は“雨でも休まず・“継続は力”である。

## 定例活動報告：湘南の森から ;( 11月13日：第二土曜日；臨時に開催)

昨年は森との出会いがありました。大磯のすぐ北の湘南平の森を手入れる人たちと知り合い、私も仲間となって活動を始めました。ジャングルのような笹藪を刈ると、ヤブランなどの豊かな林床植物が出現・開花し、沢山の蝶類が飛翔するという、奇跡のようなことが起こるのです。森に癒されての創造力、そんな森を伝えること、これが今後の私の使命のような気がしてきました。もう一つに気懸りなのは、地球温暖化の原因が本当にCO2なのか。私の尊敬する地質学者によると、今、地球は寒零化に向かっているとの事。異論とも見えるこの説を自分なりに検証してみたいと思っています。 (以上は、佐藤さんからのハガキによる通信)

12月13日、最後の活動日だということで、午前は作業、午後は「忘年会」にしないかという提案もあって、更に出縄さん(進和学園)が、「自由にご利用ください」との事で、湘南平直下の“喫茶・しんわ”の2階の和室を使わせて頂くことになった。



参加者は14人に増えて午前中、大いに張り切って浅間神社の下の斜面のボサ刈りは、見る見るはかどりと視界が広がった。そのような結果を得て今年最後“緑のダム・湘南の森”の今年最後の作業となった。忘年会は、持ち寄り差し入れが多数あって、和気あいあい、盛大に終了して散会した。(石村記)

湘南平(しょうなんだいら)は神奈川県の大磯市と大磯町の境にある標高181mの丘陵で、泡垂山の山頂一帯を指す。地元ではかつて千畳敷と呼ばれていたが、公園として整備するにあたり湘南平と名付けられた。高い山ではないが相模湾を一望できる眺望は素晴らしく、桜の木も多く花見の季節は家族連れで賑わう。

大磯市の高麗山公園の一部で、北側の旭地区出縄から地続きでバス通りがある。高麗山公園内にはハイキングコースが整備されている。そのため四季を通じて家族連れや中高年ハイカーが訪れ、近隣の小学校では格好の遠足コースとなっている。湘南平から高麗山に向かう途中には浅間山があり、浅間神社と一等三角点がある。

(文章、写真ともに Wikipedia より引用)



格好のハイキングコースと言うが、荒れるに任されており、これを見かねた岩澤さんらが整備に立ちあがった。交通至便の場所にあり、森林を広報する活動も絶好の場にある。(参加者募集中)

12月に入り、軍手で作業していても手先が冷たくなるほど寒くなってきました。木の葉もすっかり落ち、野鳥がよく見えます。

今回 Forest Nova は佐々木さんからチルホールの取り扱いについて講習を受けました。講習は7月に続き2回目で、チルホールを使った作業も見てきているはずなのに、最初から自分たちで行うことはとてもできませんでした。佐々木さんの指導のもとでの伐倒でしたが、久しぶりの伐倒作業だったせいもあってか、思っていた方向には倒せませんでした。作業中は相手に思っていることが伝わりづらいので、具体的な数字などを示して意思疎通をしていかなければいけないと教わりました。



午後は伐倒した木を使って経路作りを行いました。中里山への経路ということなのですが、今までの経路をそのまま延長していくと中里山へは遠回りになってしまうようだったので、今回経路をほぼ直角に曲げて軌道修正を行いました。最近急傾斜に階段を作ることが多かったのですが、今回は斜面に平行に材を渡して道を作りました。この方法は階段を作るよりとても早く作業が進むと聞いていたのですが、初めてこの方法を行った1年生からは驚きの声が上がりました。



2時を過ぎても山の中は凍っていて、山の外と中の気温差がとても感じられました。今年の活動も、残すところ1回となりました。

今回の作業は以上です。

.....

“中里山”は「小原本陣の森」の最奥に位置し、これに至るには、共有林尾根沿いの経路をつくらねばならず、それだけで約半年、掛りました。学生たちも、ひたむきにこれに取り組んで、遂にやり遂げてくれました。来春2月から、いよいよ、「中里山森林整備」に入ります。中里山は傾斜がきつく、それ相応の森林整備の技術がなければ入山、作業できないことになっています。学生たちはこの1年半の間、熟練のメンバーたちから指導を受け、活動に臨みます。(石村記)

若やく師走の寒空の下・・・、

初参加11名、会員参加18名、早大付属本庄高校3名、望星高校26名、学生連合(麻布大7・桜美林大3)10名、農工大30名、他に毎日新聞社から2名。計100名。学生の参加は全体の67%。天気晴朗、風冷たし。師走末の寒空の中に集うこの多数の森林ボランティア活動の持つ意味は、何だ?。そして若者の参加の多さが、この若さが当会の活動の特徴。

花畑班、体験学校班、森林整備班、望星の森班、学生連合班、生態系調査班、木工班、農工大班。農工大の参加目的は、「FSCの森見学とFSCの持つ意味の研究会」という形で活動を展開した。

ベテラン会員は、それぞれの班リーダーとして各持ち場に散った。森林・林業基本法に言う、“森林の公益性と多様性”を体現したいという思いと、FSCの言う“環境と経済が矛盾しない持続的地域社会づくり”を常に念頭に置いているから、初参加の人々には“ごった煮”の森林活動に見えるかも知れない。然し、活動各班は、整然と進行した。



石村は、農工大の「午前中FSCの森、現場視察案内」。体験学校が使うルートを使いながら森の状況説明、巨木の森の持つ意味。お昼の休憩後は、FSCに関する緑のダムとの質疑応答。陽の当たる林道坂道で輪になって質疑応答に1時間を費やした。



主な質問は、

1. FSC取り組みのキッカケ
2. 準備したこと
3. 苦労したこと
4. 取得の結果、変わったこと
5. 現在の管理方針
6. 現在、意識していること、
7. 後は、活動現場での諸問題。

さすが農工大、突っ込みが鋭くて、真剣にならざるを得なかったが、当方は、川田会員・角田会員の“雨でも休まず”の猛者2名の応援を得て、真剣に楽しく厳しく、森林活動を広報した。最後、特に「君たち若者こそ森林を担う革命家たれ!」と励ました。若者たちの目が光っていた。

残った時間は、森に散らかった倒木をチェーンソーで、2m均一に伐って、腐らないように井桁に積み上げて良い汗を流して終了とした。

早いもので、北鎌倉の仲間と支部の立ち上げを考えて、この12月で4年を経過しました。元々、秋の「匠の市」で使う青竹を切らせて頂きに竹林に入り、本堂のうら、1メートルに迫る急斜面に密集している孟宗竹に、ほとんど素人の私にも、これは拙いなんとか斜面を軽くしなければ斜面が持たないかも知れないの思いに、お寺に入らせてと懇願しましたが、竹が斜面を崩落から守っていると信じておられるご一家には、他に目的があるのかと思われてか、檀家の私でさえ活動にこぎつけるのに翌年の4月までに掛かりました。



許可を頂いて月2回で約300本以上は伐り出し、そのたびにこの環境保全運動が経済性を生まないかと(FSCのガイドラインでは、環境と経済が調和融合する持続的な社会の具現化を求めている)工作好きなお仲間の細工ものや、健仁寺垣根、イベントの竹伐り体験、委託での竹炭作り、竹灰つくりと挑戦してきました。



そんな活動が、環境を取り戻すために日本中を走りまわった、元国会議員の共感を得、「緑のダム北鎌倉」の活動ここにあり、横浜市の持つ水源地は道志村だけではない、相模川全流域も大事だよをアピールするために「2009年・横浜開港150周年記念イベント」でつくられる2万本の竹構造物の使用後の活用後欲しいと横浜市と打ち合わせに入っています。

## 報告 SPP 望星の森

東海大望星高校 宮村連理

今年度11月、12月(来年の2月も予定)の望星の森は独立行政法人科学技術振興機構の助成であるサイエンスパートナーシッププロジェクト(SPP)採択事業として開講されました。通信制としての採択は前例のない事業のようです。この事業では普段森での作業しか行わない子どもたちがウェブ上で事前、事後学習を行いました。緑のダムのスタッフを始め、日大桜井先生、東農大上原先生のネット上の講義を聞き、実際に作業を行っています。



11月は間伐体験を中心に、12月はその間伐材を使って望星の森に土留めを作りました。この事業に採択されたことにより、参加費、交通費の一部が子どもたちに補助されるため、「常連」の子どもたちだけでなく、普段は参加しないようなひと味違った子どもたちが集まっています。特に学校をあげての採択事業ということもあり、毎回数名の教員が参加しているというのも今までになかったことです。



特に11月の活動では、斉藤さんにご指導いただき、間伐の意味、その手順について詳しく説明いただきました。教員のなかでも斉藤さんのお話は論理的で、ずっと入ってくる話でとても参考になったという評判が立つ程の内容で生徒達も夢中で作業をしていました。さらに12月の活動では、川田さんから土留め作りをご指導いただき、あっという間に10本を超える土留めを作ることができました。

生徒がネット上に書き込んでいる内容は次回に紹介したいと思います。また、この講座のために制作したネット授業も近々本会ホームページでご覧いただけるようになりますので、そちらもぜひご覧ください。

Forest Nova は12月6日に『森 スタ』と題した勉強会を麻布大学にて行いました。この勉強会は自分たちが今行っている活動の意味や価値を改めて確認し、さらに幅を広げていくきっかけとして企画しました。

今回の発表のテーマは『木の利用方法について』として、各自調べてきたことをパワーポイントにまとめてそれぞれ発表しました。木くずや炭、国産材の利用についてや、割りばしの問題、木材建築について、木材の炭素固定、針葉樹と野生動物の問題など、同じテーマでも様々な視点からの発表を行いました。

発表後には他の人の発表をどれだけ理解できたかテスト企画も行いました。他の人の発表のテーマが書かれたくじで引き、それについて説明するというものでした。人の発表をまとめ、発表するのは難しかったですが、説明することで更に深く理解することもでき、とてもよかったです。



また、テスト後には『もっと知りたい！JUMPしたい！』と題した企画も行いました。この企画では、発表したものの中で、もっと知りたい！調べてみたい！聞いてみたい！と思ったことを出し、それについてみんなで意見交換を行いました。また、その事柄をまとめ、そこから今後の活動で活かせるものを出して企画書を作成したりなど、今回得た知識を今後の活動に活用しようと考えています。今後もこのような勉強会を行っていきたいです。

- .....
- 活動のモットー : 急がず、楽しく、無理せず、休まず、ポチポチと・・・  
そして、沢山の参加で森は良くなる。
- 名 称 : N PO 法人緑のダム北相模
- 事 務 局 : 154 - 0023 東京都世田谷区若林3 - 35 - 9
- 発行人 : 緑のダム北相模・運営委員会 T&F 03 - 3411 - 1636
- H P : <http://midorinodam.jp> E-mail : [info@midorinodam.jp](mailto:info@midorinodam.jp)
- 協働団体 : 神奈川県(企画部土地水資源対策課、環境農政部森林課、県北地域県政総合センター) セブンイレブンみどりの基金
- ご支援の団体 : WWF・JAPAN, イオン財団、市民社会チャレンジ基金、東急コミュニティ J F E メカニカル, 神奈川県建具協同組合、生命の森宣言・東京